



令和8年度 水稲生育診断情報 No. 2

(令和8年6月24日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL: 0748-46-4391)

(次回は7月中旬頃の予定)

現在の生育状況

- ◎5月は気温が高く、日照時間が多く、降水量が少なく推移し、水稲の活着や生育は順調でかなり進んだ。6月に入ってやや鈍化しているが、平年より生育はやや早く、草丈はやや高く、茎数はかなり多い状態となっている。
- ◎6月中旬の高温の影響により、一部ほ場では還元障害が発生している。

管理のポイント

- ◎目標穂数の8割の茎数が確保できたほ場では、速やかに溝切り・中干しを実施する。
- ◎近年、夏季の異常高温が原因と考えられる水稲の収量および品質低下が続いている。気象予報(3か月予報)では、今年の夏も高温になる確率が高い予想となっていることから、適切な施肥と水管理を徹底する。
- ◎穂肥の施用にあたっては、移植日やほ場の条件により生育が異なることから必ず幼穂を確認して、適期に適量を施用する。
- ◎全量基肥(一発肥料)栽培においても、追肥が必要な場合があるので、水稲の生育状況に応じて耐暑肥^{たいしよごえ}の施用を検討する。
- ◎幼穂形成期以降はイネの要水量が多くなることや、カドミウム吸収抑制のため出穂前後各3週間は常時湛水を行う。常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3cmから5cmの浅水で管理する。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
6月	上旬	平年並	高い	かなり少ない	かなり多い
	中旬	高い	平年並	多い	かなり少ない

- ※気温 <±0.5℃:平年並、±0.5~1.0℃:やや高い(低い)、±1.0~2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)
- ※日照時間 <±5hr:平年並、±5~10hr:やや多い(少ない)、±10~15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)
- ※降水量 <±10mm:平年並、±10~20mm:やや多い(少ない)、±20~30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

(2) 地温、土壌窒素の推移

- 日平均地温は、5月中旬から下旬にかけて平年より高く、6月2日から6月10日にかけては平年よりやや低く、その後6月18日にかけて平年並か平年よりやや高く推移した。その結果、移植後の5月12日から6月17日までの積算地温は、平年と比べて高かった(平年比105%)。
- 6月10日時点で、窒素無施用区の水稲窒素吸収量は、平年より41%多かった(2026年:0.99kgN/10a、平年:0.70kgN/10a)。また、土壌中のアンモニア態窒素残存量は平年より26%多かった(2026年:1.49mgN/乾土100g、平年:1.18mgN/乾土100g)。水稲窒素吸収量と土壌中アンモニア態窒素残存量を合わせた地力窒素発現量は平年に比べて多いとみられる。

(3) 近畿地方1か月予報(6/20～7/19) (大阪管区气象台6月18日発表)

- 向こう1か月の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- 平均気温は、ほぼ平年並の見込み(平年並の確率30%)、期間の後半は平年並か高い。
- 降水量は、ほぼ平年並の見込み(平年並の確率30%)。
- 日照時間は、ほぼ平年並の見込み(平年並の確率40%)。

(4) 近畿地方3か月予報(7月～9月) (大阪管区气象台6月23日発表)

- 向こう3か月の平均気温は、期間の前半を中心に高い見込み(高い確率50%)。
- 月別の気温は、7月、8月は高い確率60%、9月は平年並の確率40%。
- 向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並の見込み(平年並の確率40%)。

2 生育状況

【農業技術振興センター水稲作況調査(6月19日時点)による。表1、表2および後掲グラフ参照。】

- 草丈は、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とともに平年よりやや長い。
- 茎数は、「みずかがみ」、「コシヒカリ」とともに平年よりかなり多い。
- 葉色は、「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年よりやや淡い。
- 主幹葉数は「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年よりやや多い。
- 「きらみずき」は直近2年の平均と比べて、草丈は同等、茎数は多く、葉色は淡く、葉数はやや少ない。
- 6月22日現在、「みずかがみ」「コシヒカリ」は幼穂形成期(幼穂1.0mm)に達していないが、平年と比べて3日程度早まる見込み。

表1 令和8年(2026年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主幹葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
6/1	みずかがみ	28.3	25.3	112	26.3	212	153	139	115	-	-	-	-	7.0	6.2	0.8	6.5
	コシヒカリ	28.3	25.3	112	27.1	208	148	141	127	-	-	-	-	6.6	5.8	0.8	6.0
	きらみずき	29.5	-	-	28.1	164	-	-	104	-	-	-	-	6.3	-	-	6.2
6/10	みずかがみ	39.6	31.3	127	30.9	376	303	124	222	43.0	39.5	109	39.2	8.7	8.2	0.5	8.4
	コシヒカリ	38.0	29.8	128	27.7	383	287	134	226	42.0	39.1	107	36.2	8.4	7.9	0.5	7.9
	きらみずき	34.6	-	-	28.6	266	-	-	205	40.2	-	-	38.1	7.9	-	-	8.1
6/19	みずかがみ	48.2	44.3	109	48.8	573	462	124	366	40.0	41.4	97	43.9	10.0	9.8	0.2	10.1
	コシヒカリ	49.0	45.5	108	48.7	653	497	131	394	40.0	42.4	94	42.6	9.9	9.5	0.4	9.5
	きらみずき	38.7	-	-	44.3	450	-	-	373	36.6	-	-	41.9	9.3	-	-	9.7

※移植日:5月11日(播種日:4月21日)、栽植密度:18.5株/m²、植付本数:3本/株

※比および較差は平年との比較。平年は、H28～R7年(10年間)の平均値。

※「きらみずき」はR6年から調査開始したため平年値なし。

6月19日現在の生育状況



「みずかがみ」
茎数 573 本/m²

「コシヒカリ」
茎数 653 本/m²

「きらみずき」
茎数 450 本/m²

表2 水稲作況調査 生育ステージ

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	未	6月29日	－	6月29日
出穂期	未	7月22日	－	7月19日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	未	7月3日	－	7月1日
出穂期	未	7月26日	－	7月24日

※移植日は5月11日(播種日:4月21日)。

※平年は、H28～R7年(10年間)の平均値。

3 今後の管理

(1) 生育に応じた穂肥等の施用

- 本年は平年と比べて生育が早まっており、早生品種の幼穂形成期は3日程度早いとみられるが、移植日やほ場条件により生育ステージが違うため、幼穂長をしっかりと確認し、幼穂形成期の生育に応じて、穂肥の施用時期および施用量を調整する。
- 登熟期における栄養不足を回避するため、穂肥は適期に必要な量を確実に施用することが重要である。

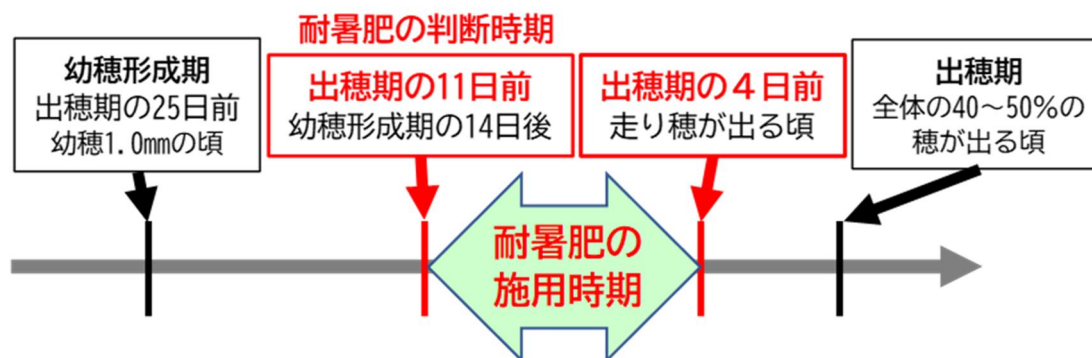
◇夏季の高温に備えた耐暑肥^{たいしょごえ}の施用

- 追肥不足や地力が低いほ場では登熟期間の葉色が低下しやすく、背白粒、基部未熟粒の発生が助長され、出穂後の気温が高温になった場合、白未熟粒の発生割合が高くなる。特に、幼穂形成期の生育が標準量を超えて籾数過多のほ場で顕著である。
- 本年は分けつが旺盛で追肥が必要な生育(NDVI値)のほ場が多い。
- そのため、高温が予想される場合は、全量基肥(一発肥料)栽培であっても出穂の11日前頃(幼穂形成期の14日後)までの葉色が薄い(葉色版で4.0(葉緑素計値36)以下)ほ場では、玄米品質の低下防止のための耐暑肥(出穂11日前から出穂4日前までの間に2kg N/10aを限度)を施用する。

※環境こだわり栽培では化学肥料窒素成分の上限4kg/10aに注意。

※出穂4日前(早い穂が出始める頃)以降の追肥は食味を落とすため、施用しない。

※葉いもちや倒伏の発生が懸念されるほ場は施用しない。



◇「コシヒカリ」の穂肥

■「分施肥体系」の場合

- ・ 出穂 18 日前 (幼穂形成期の 7 日後 = 幼穂長 1mm 確認 7 日後) と出穂 11 日前 (幼穂形成期の 14 日後) の分施肥体系を基本とし、幼穂形成期の生育が標準量であれば、1 回目と 2 回目の施用量は均等分施 (2 kgN/10a × 2 回、「2 - 2 体系」とする)。
- ・ ただし、幼穂形成期の生育が標準量を超えた (株張りが大きく、葉色が濃い) 場合、籾数過多による品質低下が心配されるため、2 回目の穂肥施用に重点を置き、1 回目に 1 kgN/10a、2 回目に 3 kgN/10a の分施肥体系 (「1 - 3 体系」とする (表 3))。

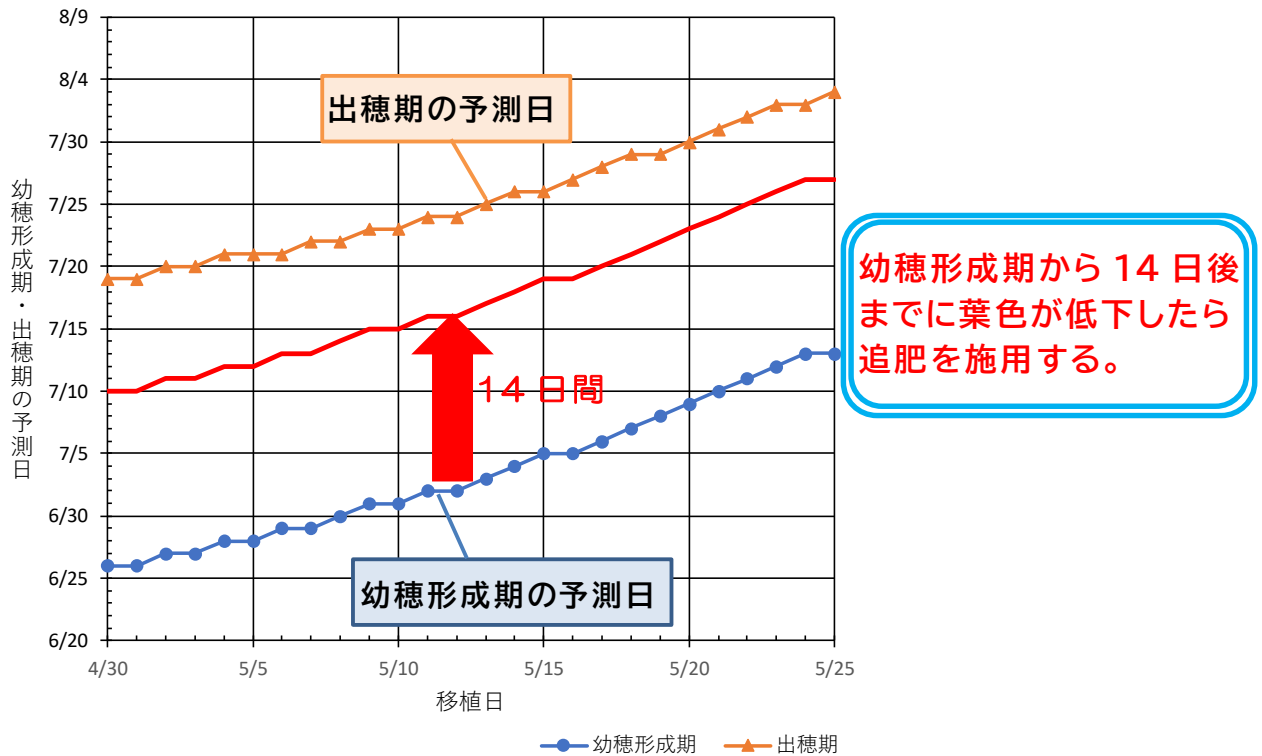
表 3 「コシヒカリ」の穂肥施用基準

幼穂形成期の生育状況			穂肥施用方法 (施用量の単位は 10a 当たり窒素量)
株張り (60 株/坪植の 茎数)	葉色		
		葉緑素計値 (葉色板値)	
大 (25 本/株以上)	濃	35(3.8)以上	出穂 18 日前 (幼穂形成期 7 日後) に 1 kg、 出穂 11 日前 (幼穂形成期 14 日後) に 3 kg 施用
	淡	35(3.8)未満	
標準 (20~25 本/株)	濃	35(3.8)以上	出穂 18 日前 (幼穂形成期 7 日後) に 2 kg、 出穂 11 日前 (幼穂形成期 14 日後) に 2 kg 施用
	淡	35(3.8)未満	
小 (20 本/株以下)	濃	35(3.8)以上	出穂 20~21 日前 (幼穂形成期 4~5 日後) に 2 kg、 出穂 13~14 日前 (幼穂形成期 11~12 日後) に 2 kg 施用
	淡	35(3.8)未満	

■「全量基肥 (一発肥料) 栽培」の場合

- ・ 幼穂形成期の茎数が多く (茎数の目安: 1 株当たり 25 本以上)、籾数過多が予想されるほ場や、出穂 11 日前頃 (幼穂形成期の 14 日後) までの葉色が淡いほ場 (葉色の目安: 葉色板 4 (葉緑素計値 36) 以下) では、登熟期の栄養不足が予想されるため耐暑肥 (出穂 11 日前から出穂 4 日前までの間に 2 kg N/10a を限度) を施用する。
- ・ 耐暑肥を施用する場合は、次項のグラフの予測日を目安にほ場を観察し、出穂 11 日前から出穂 4 日前までに施用する。

「コシヒカリ」の移植日と幼穂形成期、出穂期の予測



注：農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)における「コシヒカリ」の稚苗移植の予測。
近江八幡市安土町大中より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる

◇「きらみずき」の穂肥

- 「きらみずき」は有機質肥料を施用することから、1回目を幼穂形成期(幼穂長1mm)の1週間前頃と、2回目を1回目の2週間後(幼穂形成期の1週間後頃)が施用の適期である。
- 以下の施用時期の目安を参考にほ場を確認し、穂肥を施用する。
- 葉いもちが発生するなど穂いもちの発生が懸念される場合は施用時期を遅らせるなどの対応を検討する。

施用時期	移植時期	1回目穂肥	2回目穂肥
	(5月10日移植)	7月7日頃	7月21日頃
	(5月20日移植)	7月11日頃	7月25日頃
施用量	それぞれ有機質肥料で窒素成分3kg/10a (2回分施 合計窒素成分6kg/10a)		

※農業技術振興センター(近江八幡市)における「きらみずき」(5/10移植、中苗、R2～R6年)の出穂期データを基に、幼穂形成期が3日程度早まる事を前提として施用時期を推測しているため、今後の天候や地域によって施用時期が異なる可能性があります。

(2) 適正な水管理

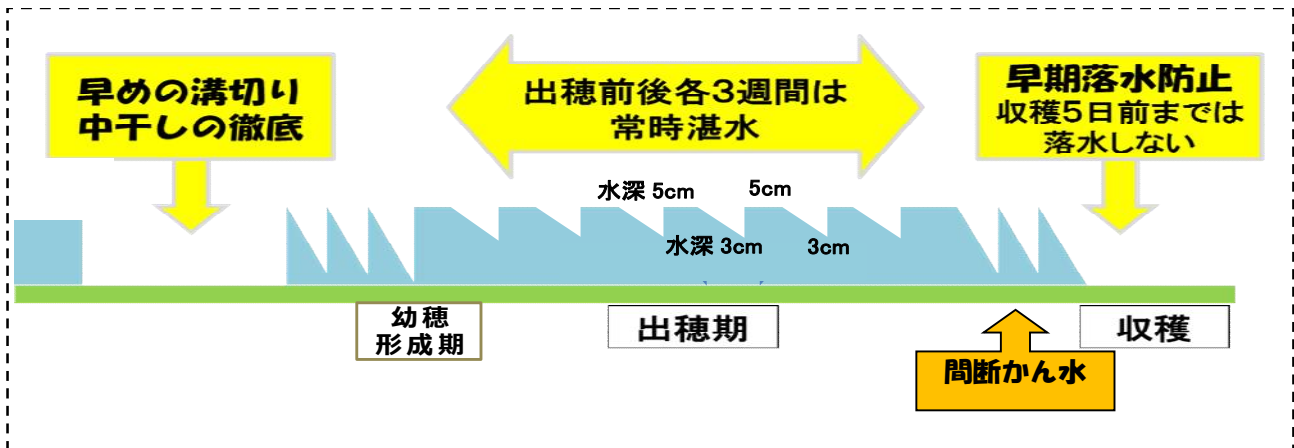
《出穂前後各3週間の常時湛水》

■出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成を行うことができず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う。

■湛水管理はカドミウムの吸収抑制にも有効である。

■常時湛水管理にあたっては、常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3cmから5cmの浅水で管理する。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



(3) 病虫害防除

6月16日発表の「病虫害発生予報第5号」参照

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5617428.pdf>



① 葉いもち【発生時期：やや早、発生量：やや多】

→すでに余剰苗でのいもち病の発病を認めている。葉いもち感染好適日予測システム（BLASTAM）でも、6月上旬以降感染好適日が出現しており注意が必要である。

■不必要な余剰苗は直ちに除去する。

■移植栽培では、いもち病に有効な長期持続型の薬剤を育苗箱に施用、または移植時に側条施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低い。

■直は栽培では、いもち病に有効な長期持続型の薬剤を、は種同時施薬機を用いて土中施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低い。

■多肥田や晩植田、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「秋の詩」「滋賀羽二重糯」では特に注意する。

■ほ場をよく見回り、発生を認めたら薬剤を散布する。

■耐性菌を生じやすいので、穂いもちの防除も考慮して同一グループ薬剤の連用を避ける。

② 紋枯病【発生時期：やや早、発生量：やや多】

■前年発生の多かったほ場では特に注意する。

■防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15～20%以上。

■生育の旺盛なほ場で発生が多いので注意する。

■病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

◇BLASTAM (ブラスタム)

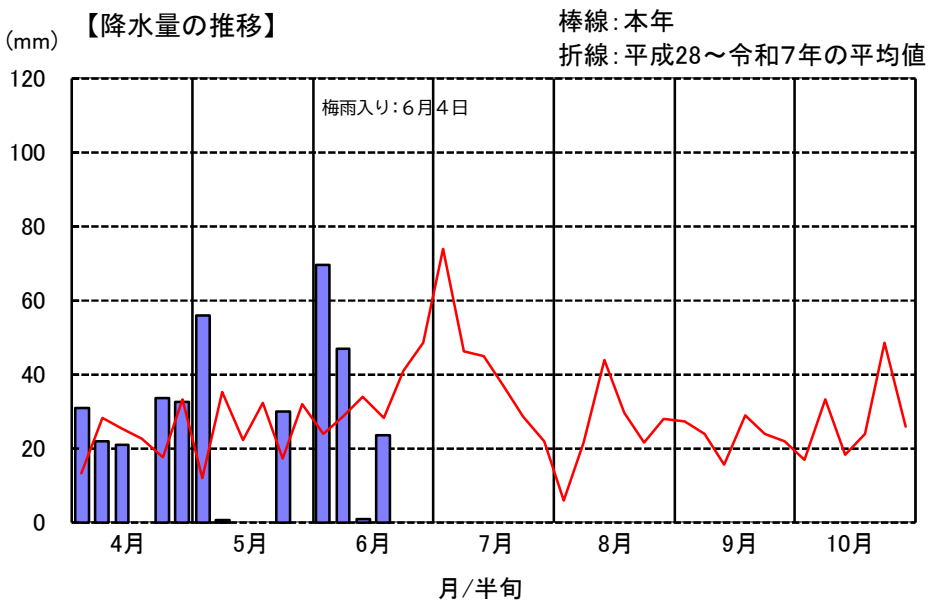
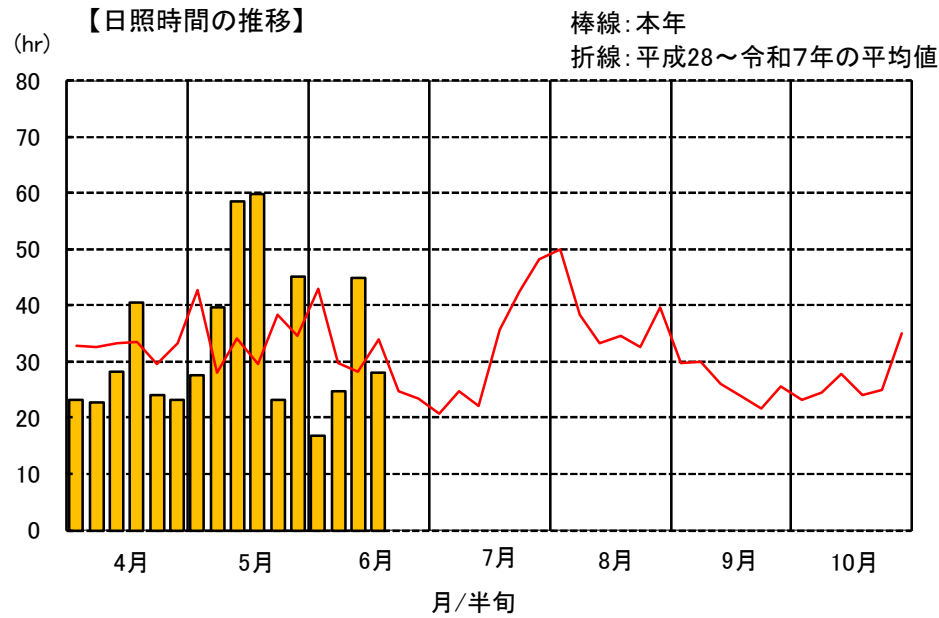
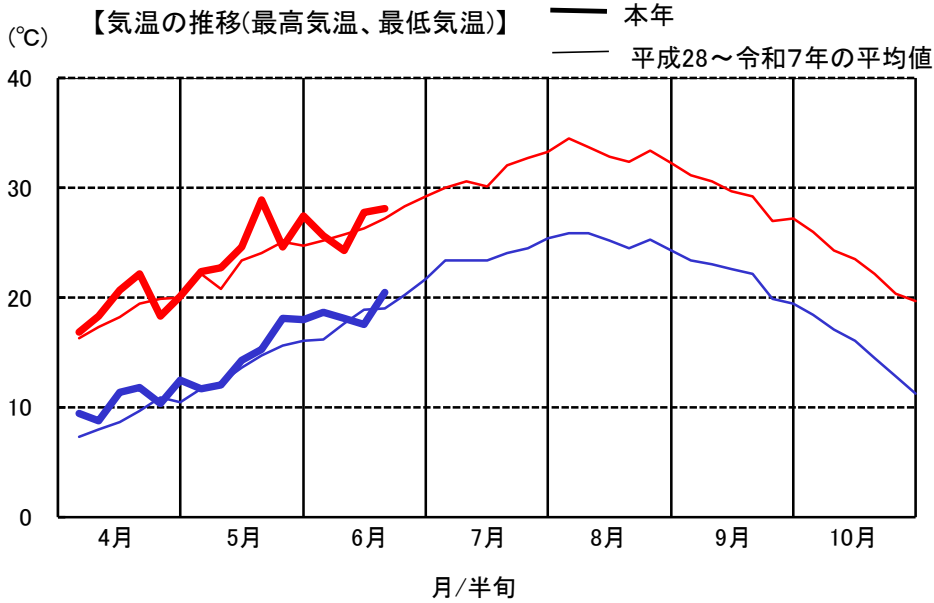
BLASTAMはアメダスの降水量、日照時間、風速から葉の湿潤時間を推定し、気温と葉の湿潤時間の組み合わせで、「いもち病」の感染に必要な条件となっているかどうかを判定するモデル（病害虫防除所HPより抜粋）。

令和8年(2026年) BLASTAM 結果		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
5月15日	金	-	?	-	-	-	-	-	-	-
5月16日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月17日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月18日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月19日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月20日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月21日	木	-	-	-	-	●	-	-	-	-
5月22日	金	-	-	-	●	-	-	-	-	-
5月23日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月24日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月25日	月	-	-	-	-	-	?	-	-	-
5月26日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月27日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5月28日	木	-	-	-	-	-	●	-	-	-
5月29日	金	-	-	-	-	-	-	●	-	-
5月30日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	○4
5月31日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月1日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	火	●	-	-	-	●	-	-	-	-
6月3日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	火	●	●	○4	-	-	○4	-	-	○1
6月10日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	月	-	-	-	-	-	-	○1	-	-
6月16日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月17日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	土	-	-	-	-	-	●	●	-	-
6月21日	日	-	-	-	-	●	-	-	-	-
6月22日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- : 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
- 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

令和8年(2026年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



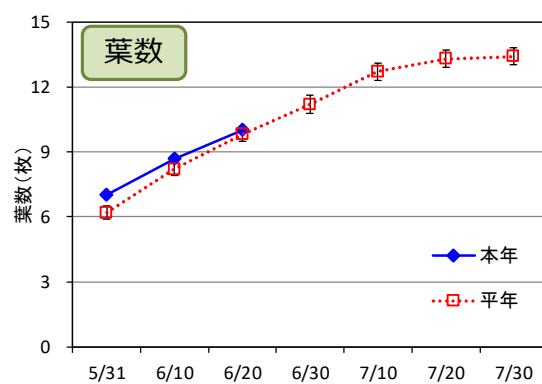
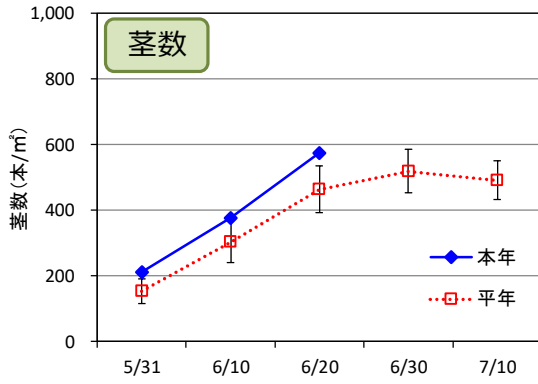
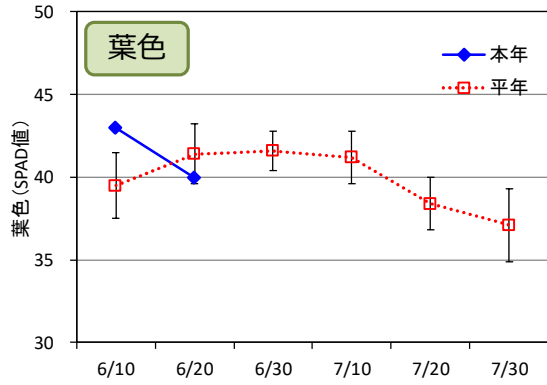
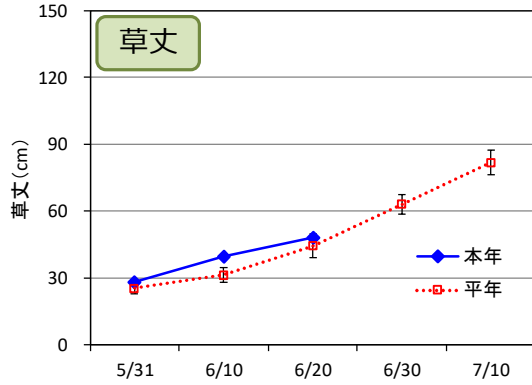
注) 平年は平成28～令和7年の平均値. 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値.

令和8年(2026年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

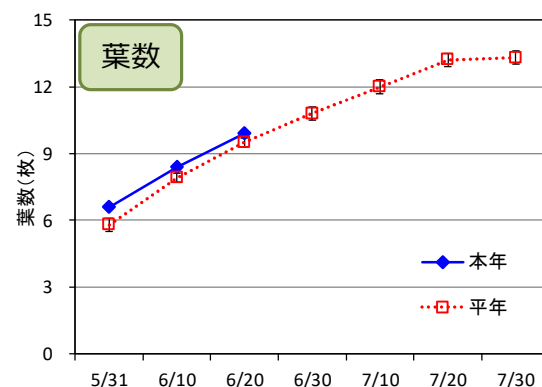
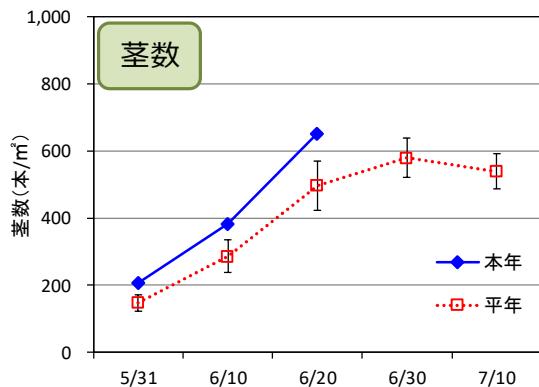
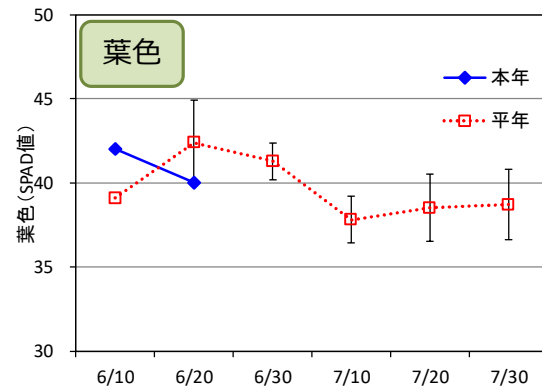
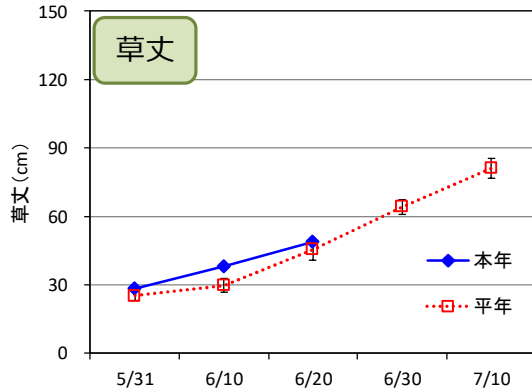
みずかがみ

播種: 4月21日、移植: 5月11日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



コシヒカリ

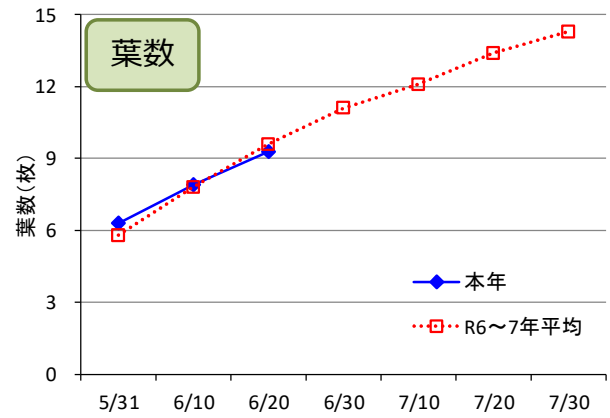
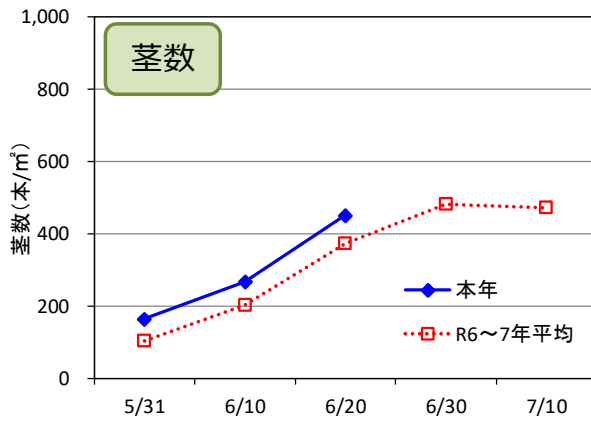
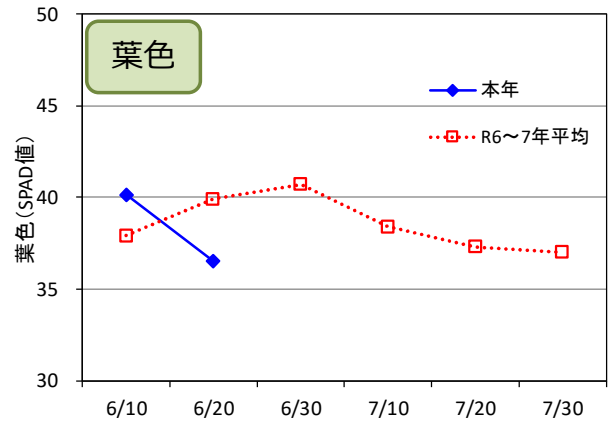
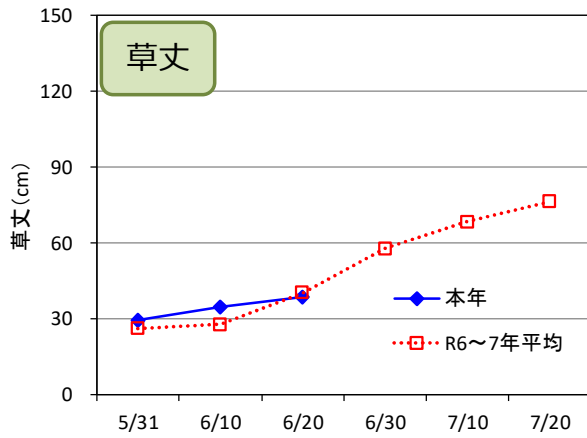
播種: 4月21日、移植: 5月11日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



注) 平年は過去10年(H28年~R7年)の平均値。

きらみずき

播種: 4月21日、移植: 5月11日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



～農業情報の配信について～

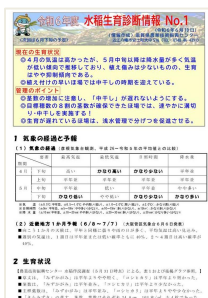


- 滋賀県では、「防災・防犯等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報やイベントのご案内など」を、ご希望の方へ情報配信しています。
- 台風等の気象災害や病害虫の発生が懸念される際に農業技術情報や農業に関するイベントのご案内など農業者向けの情報も配信しています。農業に関するタイムリーな情報収集手段の一つとして、是非ご利用ください。
- 詳しいサービスの説明、ご利用上の注意及び利用規約は下記の滋賀県ホームページをご覧ください。

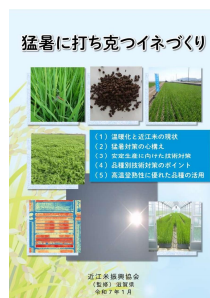
滋賀県ホームページ「しらが（しらせる滋賀情報サービス）ご案内」
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/306374.html>



収量・品質確保のための参考資料



水稲生育診断情報
(滋賀県 HP)



猛暑に打ち克つイネづくり
(近江米振興協会 HP)



水田土づくりマニュアル
(滋賀県 HP)

【参考サイト】

農業技術振興センター
 病害虫防除所
 彦根地方气象台
 早期天候情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>
<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/>



農業技術振興センター



病害虫防除所



彦根地方气象台



早期天候情報



Instagram始めました

滋賀県農業技術振興センターの
公式アカウントです
各研究部門・農業大学校・
農業革新支援部から
旬の情報やお知らせを
お届けします
フォローをお願いします！

(写真は配信内容イメージです)



NOUGI_SHIGA

各研究部門
農業革新支援部



SHIGA_NOUDAI

農業大学校



滋賀県農業技術振興センター